

# 水稻情報

中干しの実施判断は難しい... が！  
じっくり読んで理屈を飲み込んで  
実践してみよう！



## 中干しの強度・期間は、難問！ ポイントを押さえて実施しよう！

6月に入り稲の色が出て、葉数が6～8葉、  
5～6節から分けつが出始めたら「中干し」  
開始の合図です

田植え後 $\alpha$ 日（1株当たり茎数が $\alpha$ 本になっ  
たら）開始！は植込み本数にバラつきがあるので、  
大まかな目安です。

近年の気象極端現象で、6月が多照高温となり  
急激なワキの発生や地力発現増大となる頻度が高  
まっています。このことが原因で「秋落ち」や「倒  
伏」「登熟不良」が発生していると考えられます。

北陸地方の向こう3か月予報では6、7月と暑  
くなる見込みです。（参考：気象庁HP）

| 気温、降水量の各階級の確率（％） |      |         |    |       |
|------------------|------|---------|----|-------|
| 気温               | 北陸地方 | 05月～07月 | 10 | 30 60 |
|                  |      | 05月     | 20 | 40 40 |
|                  |      | 06月     | 10 | 30 60 |
|                  |      | 07月     | 20 | 30 50 |
| 降水量              | 北陸地方 | 05月～07月 | 30 | 30 40 |
|                  |      | 05月     | 30 | 40 30 |
|                  |      | 06月     | 30 | 30 40 |
|                  |      | 07月     | 30 | 40 30 |

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

（引用元：気象庁 新潟県の季節予報）



予報はこちらから  
確認できます

## 収量品質の向上には、分けつの発生状況がポイント！

稲の分けつは、下の節であり、かつ親茎から出る分けつが、大きな穂をつけ、精玄米重  
／穂は大きく、登熟が勝り蛋白質含有率が低下することがわかっています。稲を観察せず  
早期に中干しに入ると、せっかく活着して良い茎が出始めているところに水不足・断根等  
ストレスを与えることになり良質茎が取れなくなります。

| 次位    | 節位 | 1穂精玄米重         | 整粒歩合           | 精米タンパク質含有率      |
|-------|----|----------------|----------------|-----------------|
|       |    | g              | %              | %               |
| 主稈    |    | 1.90 ± 0.13 a  | 85.9 ± 5.70 a  | 5.69 ± 0.28 c   |
| 1次分けつ | 3  | 1.46 ± 0.01 ab | 82.7 ± 5.60 a  | 5.96 ± 0.35 bc  |
|       | 4  | 1.60 ± 0.13 ab | 86.2 ± 5.90 a  | 5.87 ± 0.35 bc  |
|       | 5  | 1.55 ± 0.07 ab | 87.0 ± 2.80 a  | 6.20 ± 0.33 abc |
|       | 6  | 1.21 ± 0.04 bc | 87.9 ± 4.70 a  | 6.56 ± 0.30 abc |
| 2次分けつ | 3  | 0.89 ± 0.45 c  | 55.7 ± 32.5 b  | 6.38 ± 0.60 abc |
|       | 4  | 0.93 ± 0.26 c  | 79.7 ± 2.20 ab | 6.60 ± 0.44 abc |

F検定 \*\* \* \*\*

表中の数値は平均値±標準偏差を示す。  
アルファベットの違いは、LSD 1%水準で有意差があることを示す。  
表中の\*は5%水準で、\*\*は1%水準で有意差のあることを示す。

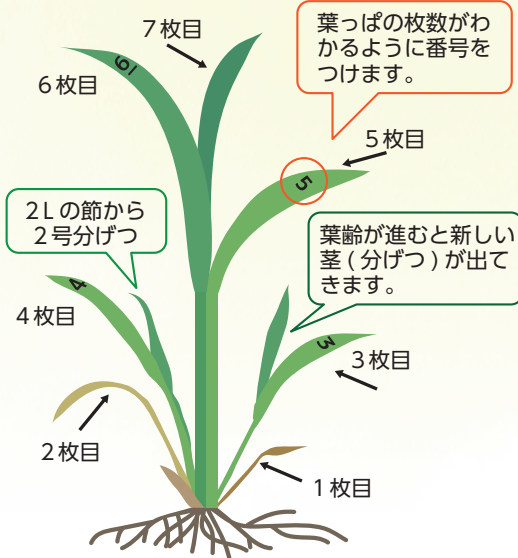
チョット難しいけど、表は左列か  
ら分けつの発生部位、節(葉数  
同)、穂に着く玄米重、整粒、タ  
ンパクの順に並んでいてabc毎  
に差が有る事を示し  
ています。整粒歩合は  
2次分けつでは低下し  
てしまいます。

参考：秋田県公式サイト 美の国あきたネット  
令和7年度版稲作指導指針



## おさらい！分けつは展開している 葉っぱの2つ下の節から出てきます。

- 種籾1粒から1個体＝主茎（主稈）を中心に、下  
葉の付け根から順に出てくるので、順調な分けつ  
が発生すると内側から開帳するように広がってき  
ます。⇒分けつ期に太い茎が出て広がっているの  
が理想型。
- 田植機のかき取り量が多い＝大苗（5本／株）以  
上だとこみ合って分けつが休眠します。
- 分けつ開始目安6茎／個体で計算すると、3本植  
では1株18本、4本植では24本になり、1株の茎  
数だけ数える場合は、栽植密度に加え植え付け本  
数も考慮する必要があります。



## 時間軸でなく、生育(分げつ{茎の数})を数える

分げつの発生状況や、地域の水事情を検討してから落水⇒溝切⇒中干しを行うことが「中干し」の肝です。

● R7年度から事業所毎に「栽培管理支援システム【ザルビオ】と「定期生育調査ほ場」を兼ね備えた「地域解析ほ場」を設置しました。

R6年度のザルビオ予測は実測と比べ75%  
= (53+22) 正答率となりました。

\*県指針：中干し始めの目安は目標茎数350  
茎/㎡約七割÷16～17本/株(50株/坪)  
なので、BBCH23～24を目安に開始するのも良いでしょう。

1号分げつが休眠し、以後順調に分げつが発生したと仮定した予想数

| 葉数(L) | 節(号)分げつ     | 2次分げつ                        | 総分げつ数 | 主茎併せて | 1株3本植 | 1株4本植 |
|-------|-------------|------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| ④     | 2号          |                              |       |       |       |       |
| ⑤     | 2号3号        |                              | 2     | 3     | 9     | 12    |
| ⑥     | 2,3,4       |                              | 3     | 4     | 12    | 16    |
| ⑦     | 2,3,4,5     | Ⅱ-1                          | 5     | 6     | 18    | 24    |
| ⑧     | 2,3,4,5,6   | Ⅱ-1, Ⅱ-2, Ⅲ-1                | 9     | 10    | 30    | 40    |
| ⑨     | 2,3,4,5,6,7 | Ⅱ-1, Ⅱ-2, Ⅲ-1, Ⅱ-3, Ⅲ-2, Ⅳ-1 | 13    | 14    | 42    | 56    |

### R6実証試験「生育予想を活用した中干しの目安の作成」

| 中干し       |        |        |        |        |        |        |        | BBCH | 定義      | 3本/株植 | 4本/株植 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|---------|-------|-------|
| 生育ステージ    | BBCH21 | BBCH22 | BBCH23 | BBCH24 | BBCH25 | BBCH26 | BBCH27 | 23   | 主茎+分げつ3 | 12    | 16    |
| 割合        | 1%     | 8%     | 53%    | 22%    | 10%    | 3%     | 3%     | 24   | 主茎+分げつ4 | 15    | 20    |
| 差の平均(絶対値) | 11     | 8      | 4      | 5      | 7      | 9      | 11     |      |         |       |       |

## 中干しの効能(※中干しは田んぼを乾かすだけではありません)

「田面水を無くし大気に触れさせ、土壌水分を下げる」ことで・・・何が変わる？

### 【重要度の高い順】

- 1 土壌への酸素供給で根の健全化⇒根張りが良く、登熟時に養水分を効率よく吸収し登熟向上、倒伏も軽減＝秋落ち軽減
- 2 スムーズな栄養生長から生殖生長への転換促進で無効茎発生抑制
- 3 収穫時に向けて地耐力確保・停滞水の排水
- 4 しっかりした「溝切り(溝建て)」とセットでフェーン時の迅速な灌水可能
- 5 田植機走行のため、除草剤が効くため、穂肥が良く吸えるため・・・水は必要！  
水を落とす機会は「中干し」時期だけ、中干しは唯一土壌を酸化状態にし健全化できる作業である。  
(稲作期間に唯一、土壌を酸化状態に持って行ける。)

## まとめ

- ①湧き(ワキ)を確認したら中干し前でも、一旦田面を出すことが大事
- ②中干しが出来るまで待つのではなく、中干し出来るよう活着を良くすることが大事
- ③茎数が少ない場合は2～3cmの浅水管理で分げつ促進！！分げつ発生限界最低水温は18℃程度。朝に入水、たっぷり入れると温まるまで時間がかかる。
- ④中干しは田んぼを乾かす作業ではない、黒乾き(泥が乾ききって白くなるまで乾かすのはNG)程度とし、田面から水の蓋を外すことを意識することが大事
- ⑤田面水を無くし大気に触れさせ、土壌水分を下げることで、酸素が地中にも入る。  
酸素が無い還元状態が続くと根を痛めるガスやプロピオン酸が発生し、さらに鉄やカルシウムの溶脱が生じ悪循環、負の連鎖が始まる。
- ⑥溝切作業は、田んぼ内に仮設「用排水路」を設置する作業、限りある用水を有効に活用できるようにすることが大事